

平成16年度第3回

鹿野地区地域審議会 会議録

日 時 平成16年6月23日

場 所 周南市 鹿野総合支所

3階 大会議室

平成16年度 第3回 鹿野地区地域審議会 会議録

1. 開催日時 平成16年6月23日(水)
(開会) 午後1時
(閉会) 午後6時
2. 開催場所 周南市鹿野総合支所 3階大会議室
3. 出席委員 (1) 原 勝 己
(2) 服 藤 章 司
(3) 洞 崎 伸 治
(4) 福 田 孝 志
(5) 藤 本 絹 枝
(6) 植 田 忍
(8) 中 村 恒 愛
(9) 澤 野 月 香
(10) 有 國 美 恵 子
(11) 坂 本 良 夫
4. 欠席委員 (1) 藤 井 幸 江
(2) 金 子 静 雄
(3) 兼 石 慧 子
(4) 岸 田 安 義
5. 出席職員 特別参与 岡 林 久 熊
鹿野総合支所長 土 井 公 夫
同 次長 重 永 正 人
地域振興課担当 小 田 和 則
同 担当 仲 西 徹
同 担当 末 次 哲 也
6. 会議次第 別紙のとおり
7. 会議経過 別紙のとおり

6. 会議次第

1 開 会

2 特別参与あいさつ

3 議 事

(1) 南市まちづくり総合計画・基本構想(案)の審議

4 閉 会

7. 会議経過

(1) 開 会

(2) 特別参与あいさつ

(3) 会議の内容

会 長： 只今から会議を始めます。4月26日の諮問以来、検討会を含めて今回を含め6回の会議を行っております。6月8日の検討会で答申内容について、5名の答申案策定委員の推薦をいただきました。6月15日、6月18日の2回にわたり大変熱心に慎重に検討しました。そういうことをふまえて一昨日、1日も早く目を通していただくことから、こうした会議でまとめた分について協議をした訳です。

なお、附属資料として、前回までに提出されたもので、委員のみなさんに渡っていない分がありますので、本日委員のみなさんへお見せするわけです。委員さんからいただきました意見を集約した分につきまして、検討したいと思えます。答申案としてコピーをしていますが、この中に主要な意見という見出しがありますが、個々にわたる意見について記載しておりますので、その分について、逐一進めていきたいと思えます。みなさんの意見は99パーセントこの中に入っています。答申書として、前文があって内容にかかる主要な意見ということにしているが体裁としていいのかどうか。6ページからその他参考意見というのがありますが、これは字句の修正とか特殊な用語について注釈が必要とかの意見ということで2つに分けた訳です。

まず、1ページの真ん中の序論の中で「市民とともに」というのがありますが、もっと強い表現ということで「市民参画のもとに」と表現したい。その辺りどうでしょうか。

別に意見がないようでしたら、そのようにさせていただきます。

次に第2章に文末に構想、計画の見直しということで、こういう項目を追加したいということで、「この計画は、社会経済情勢の変化や地方分権の進行状況等、諸般の状況変化に迅速に対応するため、計画の見直しをすることがある。」旨明記しておきたいということ

で、ここに記載してくださいということです。

委員： 括弧書きしてあと文章をつけるということですか。

会長： 文書の内容は相手にお任せする。こういう場合答申書のスタイルとしてその旨明記することという表現にしましょうか。

委員： 「する」で切ったらどうですか。

会長： 文末に「構想、計画の見直し」を追加し、「この計画は、社会情勢や地方分権の進行状況等、諸般の状況変化に迅速に対応するため、計画の見直しをすることがある。」を加えるとした方がいいのでは。

原案では「あるので明記しておきたい。」として希望的な表現をしておいたのではいけないということでこういう方法も入れてくださいということ。ここはそのようにしましょう。

会長： 次に基本構想の5ページで、時代の潮流のところ、各項目の記述内容と統計的な数値は全国的な数値であり、それも必要だが、周南市としてはどのような傾向にあるのか、可能な限り記述しておくべきであるという意見を述べておく。文案等については、構想案の起案者の方で可能な限りでの記述をお願いしたい。その方が一般の市民の方に理解しやすいという配慮からである。よろしいですか。

6ページの(3)の高度情報化の進展のところですが、ここについてもいろんな事件が起こっている。この媒体となった携帯、メール等が人同士の意思疎通を欠くといったことが、往々にして出ているということで、こうした部分についても警告しておく必要がありますということです。

委員： 長崎で事件があったように情報化社会でのパソコンのもつ問題。人とパソコンとの係わりによるいやな事件が起こっている。

委員： 年とともにこれからも起きそうである。

会長： 7ページのライフスタイルの変化のところですが、豊かな成熟社会である一方、経済不況によっていわゆる将来に不安を抱いている市民もいること、マイナスの部分の方にも目をむけることが必要だということを行っている。

委員： これは、豊かな成熟社会の恩恵の中で、個性的なライフスタイルを求めることのできる一定水準以上の富裕層がある一方で、長引く不況等で将来の生活に不安を抱いている人も少なくなく、日本を取り巻く将来も楽観的なものではないということで、一部の市民だけに当てはまるような記述は計画としては好ましくない。

委員： 「不安を抱いている市民も少なくありません。」というのはどこに入れるのか。

- 会 長： 本文のライフスタイルの多様化の文面の中に入れてくださいということですが。
- 委 員： 「一方で長引く不況、経済低迷等で将来の生活に不安を抱いている市民も少なくありません。これら市民一人ひとりの個性や才能が発揮でき、自分のライフスタイルに合わせることでできる選択肢の多い社会が望まれています。」を下から3行目「個性的なライフスタイルを求めることによる一定の所得水準以上の富裕層がある一方、長引く不況、地方経済の低迷等で将来の生活に不安を抱いている市民も少なくない。この為、一人ひとりの個性や才能が発揮でき、自分のライフスタイルに合わせることでできる選択肢の多い社会が望まれています。」というつなぎでどうでしょう。
- 委 員： 「増えています。一方長引く不況、経済の低迷等で将来の生活に不安を抱いている市民も少なくありません。」ということを出して「このため」といけば、ライフスタイルを求めている人と求めているとできない人もいることで、こういう条件をふまえてこういう表現はどうでしょう。
- 会 長： 今のような形にしたいと。後ほど微調整しましょう。
- 会 長： 9ページの市民意識、アンケート調査の結果についてですが。
- 委 員： アンケートのとり方を見ていないが、「住みよい」かどうか、アンケート結果をもとに課題を明らかにするのに上っ面な調子がする。もう少し分析をすることで、各地区のマイナス面、問題点とか課題が浮き彫りになるようなアンケートの分析が欲しい。「自然災害の少なさ」とかが果たして特徴なのか。
- 委 員： アンケート結果の内容を分析する必要がある。いい方ばかりが目がむいている。参考にならない。もっとアンケートの内容を分析した方がよい。
- 委 員： 項目については、これではだめだということをも明記すべきだ。もっと分析した、もっとはっきりした方がよい。「住みやすい」ということで80数%の方が住みやすいということが出ている。アンケートはいいかげんな面が多い。そういう指摘をする必要がある。マイナス面の論評がされていない。
- 会 長： どういう形でアンケートされたのか。内容はどうであったか。アンケート自体を分析しないと具体的な指摘はできない。アンケートについての注文をつける。
- 委 員： 掘り下げた内容なら実態が浮かび上がるが「住みよいですか」というような抽象的であれば、わかりにくい。実態を知って参考資料

にするならもっと現実的な掘り下げた資料が欲しい。

委員： 我々がアンケートを分析しない限り、こういうふうにしなさいということとはできないから、もう一度きちんと掘り下げた分析と記述をやりなさいということを書く以外にはない。アンケートのマイナス部分もここに明記すべきである。

委員： 現状把握ができるような、課題を見出せるようなアンケートをすべきであるという注文はつけられると思う。

委員： 公的文書となるのですが、こういうアンケートの表現ではどうかということになるので、はっきり意見をつけ加えることは必要だと思う。

会長： 意見についてもメインの部分とサブの部分とに分かれた。サブの部分についてもこういうことを披瀝しておいたらという意見ですが。

委員： 最初の部分については、単純じゃなくもう少し分析、記述すべきであとの意見でアンケートはこういう部分でなければいけないということで具体的に書いてもよいかと思う。委員としてこういうふう考えたというのがあればおかしくはないと思う。

会長： サブの方なら具体的に書けると思う。

委員： マイナス部分も読み取れるようなアンケートにしていると思う。表現がないだけである。

会長： マイナスの部分もある。その部分も吸い上げて分析してみないと分からないよというのが本音である。

委員： アンケートの下に地域特性を生かした拠点施設整備というのがあがるが、何が必要なかわからないままに出ている。アンケートがまともなうけとれない。どんなものか。

委員： 「住みやすさ」という表現があるが、アンケートの結果の表現について疑問を感じている。分析のマイナス面を表現して欲しいというのがあるから、意見の方に説得力のあるアンケートかどうかということに問題があるのじゃないかということ意見をとして表現したらどうか。

委員： 80パーセントは住みやすいという、残りの20パーセントに問題があるという。そこが大事なことである。そこを取り上げてもらって計画の中に反映してもらいたい。

委員： 分析は大雑把である。

会長： ここは保留させてもらいます。みなさん方の意見をふまえて後ほど文面を作成します。そういうことにしてもらいます。

会長： 16ページの周南市の課題の所の拠点性の向上ですが、審議会に

ついてもご意見があり、策定委員会においても議論のあった所です。審議会で詰めましょうということで、空欄にした訳です。ですからこの席ではグレードアップについて、委員会として意見をだして欲しい。気になるのは、JR徳山駅を中心とした文言、一極集中じゃないかということ。ことの発端は現実には商店街、官公庁にも駐車場もないという状況にありながら、JR徳山駅の開発が大きな題目になっていることである。

委員： 新しい拠点としての役割、交流ということを中心としたらどうか。今までいろんな課題を抱えながら何も手を打っていないということがある。徳山商業高校が商店街のホームページを作成しているが、商店街が市民の声を聞いていない。JRと商店街ということで、乗り物と買い物のことしか考えていない。周辺地区の人々の拠り所としての拠点としたら、どう具体的にやるかということが問題である。

委員： 拠点性の向上は必要だ。意見が出るのは、駅前周辺にあらゆる手を打ってきたが、うまくいかなかった。周辺部との関連も考えた拠点性の向上といった拠点性ができるだろうか、という不安な所がある。内容項目を入れるにしても入れられない。今時点では拠点性の向上で通すしかないと思う。拠点性づくりは必要だ。それ以外は考えられない。

委員： 駅には、そこでないと困るものはそこには必要だ。商店とかは、そこでなくても間に合う。中央の土地の高い所に税金を使ってやる必要があるのか。中央に欲しいもの、ないと困るものは何なのか、必要なものを集める。いろんなものを集める必要はない。そこに必要なものは何なのかをはっきりして欲しい。

委員： これ以上何が書けるのか。

会長： 抽象的に入れる文書は難しい。

委員： 「こうした」から3行目はいらないのではないかと。あまり気負わなくてもよいのではないかと。中央ばかりよくする、周辺部はとられるのではないかと、という思いがある。新しい都市になったのだから、賑わいを取り戻さなければいけないのか。交通の要衝ではあるが、商店街の活性化じゃなく違った意味での賑わいが必要ではないかと。下松の方に人が行っているが、いけないという考えはどうか。自然の理にかなう所が発展している。全体の中での位置づけという観点から状況を見てそれに対する意識が必要だと思う。

会長： そういう議論はやり尽くしている。これで妥当かどうかということであり、この通りなのだが、3行を削除するというのは、もう少

し違う表現があれば、こういう言葉があればということで積み残しているのです。

委員： 2市2町の顔としてふさわしいものとして2市2町の住民が利用できるような拠点性を目指して欲しいということを意見として入れれば良いと思う。

委員： このままでいいと思うし、別に付け加えることがあれば。

委員： 注釈部分の（中心市街地の活性化、徳山下松港の港湾整備など）の部分の削りたいと思う。ここを除けば、それほどの抵抗は感じないと思う。

会長： 核を置かないとどうにもならないが、固有名詞があがってくればどうかなという気になる。

委員： 拠点性は必要。新幹線も止まる、商店街もある、港もあるということでイメージ的には良い。課題をみてきたら、徳山駅のことを最初に書いて周辺部、山間部は書かれていない。大型店が他にできたからここが寂れたわけじゃない。駐車場がないから寂れた。このことはひとつも書いてない。田舎根性じゃないが徳山だけ先に書いて田舎があとじゃおもしろくない。鹿野にもメンツがある。理解できない。

会長： 本文の下3行目は、どうであろうか。文言を挿入、活字を差換えるという適当な言葉がないわけであるが、意見の方でふれておくというのもひとつの方法ではないか。問題は市の玄関口、交通の要衝として拠点のグレードアップは、必要なことであるという前提は認めているが、商店街、駐車場という部分でも片手落ちじゃないか。市民生活の利便性に欠けているのではないかという意見じゃないか。都市のグレードアップを肯定した反面、市民生活の利便性、向上のための諸施策を講じることも重要な課題の一つになっているということ意見を部でふれておく。どうでしょうか。

委員が言われた3行を削る部分については、大見出しとして、「周南市の課題ということで……が期待されている。」それを受けてこうした拠点性の向上が市の重要課題の1つとなっているということなので、変わった言葉を入れないとまとまらないのではないか。

委員： 3行を除けると話がなくなるので、これはできないと思う。

委員： まちづくりアンケートの中で具体的に出ている。具体的な名称が出ているけれども2市2町の住民の利便性が欠けている。

委員： 「合併先進市である」とか「全国に向けて情報発信」は削ってもいいのではないか。

会 長： 山口県の中では合併先進地域である、情報発信を全国ネットワークで周南市から発信する位のグレードの高い都市を作るのが課題ですよとたっている。

委 員： 情報発信する方でないとだめなので、これはこのままでよいのでは。

会 長： 原文はそのままおくということで、その他の意見という部分に拠点性の向上という項目をあげて都市のグレードアップについては、市民生活の利便性の向上の為の諸施策も重要な課題であることを考慮されたい、という意見をつけておく。そういう旨を参考意見としてつけておくということにしておきます。

委 員： アンケートの中で他の地域も拠点的施設の整備が上位ランクされていることも意見をつけ加えたらどうでしょう。

会 長： これはコアプラザのことであり、ここでは除いたほうがよい。

会 長： 本文17ページとなる資源循環型社会の構築と自然環境の保全を2つの項目に分けましょうということ(5)を資源循環型社会の構築にし、1行目から4行目を削除してそのままおきます。3ページにいて(6)という項目をたてて自然環境の保全と交流拠点としての活用という項目をたてます、それで文章はこうしましょう。ここでは、自然豊かな供給源であるというのが鹿野地域であるというのが頭にあるわけで、これは単に水として活用するだけでなく、自然志向が高まっていること、水源の多目的な恩恵を有効に活用することをこの部分でうたうこと。そして地域性をより鮮明に現そうと都市と農村との交流の場としても活用し、周南市民の一体感を高めていくということも1つの課題として取り上げていこう。このあたりはいかがでしょうか。

会 長： これはこのままでいきます。

会 長： 18ページの(6)災害に強いまちづくりの推進。ここでは、自然災害で地震等のみにふれてあるが、諸犯罪とか交通災害にも言及しておくという意見的な部分である。災害をもっと大きな目でとらえようということです。

ここは「言及する必要がある。」というような言い回しがよいでしょう。

会 長： 次に(7)若者定住対策の推進、これは項番号を変えるということです。(7)を(8)にするということです。

(9)も新設 財政面に触れた部分がないので、いずれ何をするにしても財政が重要であるということ、財政基盤の確立がされてい

なければならないということで、周南市の現在の財政状況と今後の見通しについて言及する必要がある、としておく。

第2章の将来の都市像19ページの「市民協働による人間尊重の町づくりの推進」という部分で「市民と行政の協働による人間尊重のまちづくりの推進」とより具体的にわかりやすくした方がということです。

見出しを「市民と行政の協働による人間尊重のまちづくりの推進」とし、そこに住む市民が元気であることで都市が輝き、元気があるという観点から本文を「市民一人ひとりが・・・目指します。」と変更したらということです。

委員： 本文を次のとおりとするのを「視点」からあとにしないと本文としてそこに住む市民がというのを間違っ入れることにはならないのか。理由を書いて変更するというようにしたら。

委員： 本文を変えるということ、新しい市民一人ひとりがということも分かる。「都市が元気であるためには・・・」と書いてある。都市が元気というのは「将来の都市像」という都市をあらわしているのか。「人間尊重のまちづくりを進めていくことが必要であるには市民一人ひとりが・・・。」この都市はどういう意味で書いてあるのか。

委員： 市民一人ひとりが輝くことによって結果的に都市が元気になるのである。あくまで人を元気にした上で結果的に都市を元気にするというのを伝えたかっただけである。人に重点をおくべきである。

会長： 考え方が反転している。都市が輝くからそこへ住む人が輝くという。そうじゃなくそこに住む人間がレベルも上がる、地域が良くなる、そうして都市が栄えるのじゃないかという考え方じゃないかと。これは議論のある所ではあるが。

委員： 都市が元気であるためにはの頭に「新都市のめざす所は」と入れたらどうか。分かりやすいのでは。

委員： 頭にそれをつけるとあとに「構築する。」とかいれないとおかしくなるのではないか。

委員： 行政も一緒に参加して下さいよということです。

会長： より具体的に書いておけば、舌足らずということはない。ここでは敢えて市民と行政が一緒になってやれば、よりベターということで理解しましょう。

会長： 20ページの将来の都市像のところの3行目子供から高齢者という表現を変えて、中には障害者、病気のあるないにかかわらず、す

べての子供から高齢者までという方がより具体的にということである。

委員： 子供から高齢者までというのは全員じゃないかということだが、より具体的に表現したらということだ。

委員： 起草委員会では「周南市では肉体的、精神的障害や疾病病弱・・・」となっている。

委員： 疾病と病弱は違うということでそこでコンマをいれているのでは。

委員： 健康な人が病気になる場合と元々虚弱体質で体が弱いという人は違うということでコンマを入れたのではないか。

委員： 子供から高齢者までを周南市ではあえて肉体的、精神的障害というふうにしていく。病気という言葉をややうまく表すということで疾病ということにした。

会長： 病弱コンマを消しますか。

委員： 違った視点からいうと本文の3行目「周南市はそうした子供から高齢者まで」というのをカットしたらどうなるのか。市民すべてがということだ。

会長： 事細かに書く分については、文章に表す時に障害のある人とうたうと、そういう人にも配慮しているのですよということだ。表に現すということだ。強い表現になる。

委員： 片手落ちじゃないか。身障者だけでなく、外国人もいる。

委員： これは国籍問題じゃなくて人間自身の差別であってはならないということだ。すべてを含んだ意味である。根本的に当たり前のことである。はっきりうたっていくことが構想としては必要。今までは健常者のことだけの考えであるからどこか1箇所でも入れたい。あえて出すということだ。

委員： どうしてもないがしろにされている。どこかに書いておけばいいが、書いてなければ分かってもらえない部分がある。

会長： それでは、今の部分疾病、病弱の部分のコンマを除けて提案することにした。素案の部分ではコンマがない。現状では疾病、病弱の有無とします。3行目の高齢者までを削り、この文書を入れる。

事務局： 確認ですが文頭から3行目というのは「まち」からなのか「周南市は」なのか。

会長： 最初の文頭から高齢者までを除けてこの文章を入れるということだ。

会長： 25ページの第5章の土地利用で2の(5)中山間のことで当地域に密着したことが書いてあるということだ。都市と農村との交流に

活用するという土地利用の方法を要求しようということです。水源涵養の森林のもつ機能と農林業の生産基盤の整備ということにしかふれていないが、特に山間部で自然を活用した観光、都市と農村との交流拠点としての施設の整備、そういうあたりを想定して記述する必要があるということから意見を述べるということです。本文の方は、島嶼部は観光ということが入っているが、前段の中山間地はそういう言葉がないので、中山間部においてもそういう言葉を使うという意図からこういう言葉を入れた。

会 長： 第6章の26ページで主要プロジェクト21のリーディングプロジェクトの記述がされているが、新市建設計画に基づいて事業をやりますというのはいいが、事業効果とか、経済効果とか、緊急性とかいう部分、また、それを始めたことによる将来的に財政的な負担が生じることのあらゆることを検討すべきである、ことを要望するというか注文をつけておくということである。合併特例債とか補助が7～8割あるとかいうことで大きな事業が目白押しで入っているが、確かに本当に必要な部分からやりましょうという要望である。

委 員： 地域の実情、特性を考慮したということを入れたらどうでしょうか。

会 長： 地域の特性は大事にしなければならない所である。中心部と周辺部との均衡を保つ上では大事である。入れるとすれば地域の特性を事業効果の前に入れる。地域の特性も要望条件として入れる。具体的なことについては事務局と調整する。

会 長： 27ページの子供が健やかに育ち活躍するまちづくりの所で、2つ意見が出ており1つに絞りこむ必要がある。1点目は企業誘致の推進を強力に雇用の促進というふうに力点を置きたい。2点目は企業誘致の推進が異質ではないかと。表面的に見ると異質ではあるが、考えると当然就業の場ということで子供が活躍できることに結びつくが、他と比較すると異質じゃないかと、ここに家庭教育の充実、支援をここに置いたらいいのではないかとということです。

委 員： 企業誘致の推進には雇用の促進とか少し言葉を入れるだけです。

会 長： 高い次元から言葉を使っているが、表面的には異質じゃないかと。

委 員： 企業誘致が目的でなく企業誘致による雇用の確保が目的となると最初の方が必要である。

委 員： 新企業の創出が入っているからおかしいのであって、企業誘致の推進による雇用の創出、そういうようにしたい。

会 長： 2つの案でどうも家庭教育の充実、支援を入れてくれということで

はなく、異質なので除けるとしたならこれを入れてくださいということです。2つの案を同時に生かすということではない。

委員： 働く若い人がいないと子供が少なくなるということではなく、新企業の創出、企業誘致というのは子供が成長して働く場という意味合いに使っている。「子供が活躍できるまち」というのがあるから、その辺まで考えている。その他の項目の中に企業創出、企業誘致は入ってくると思う。

委員： 「生まれ育ったこの周南市へ定住し、活躍する場」と書いてあるので、企業誘致が必要となる。

会長： 定住ということになると働く場が必要と就業の場ということでこの文書ができていると、上の雇用促進を入れさせていただいて、下の部分については、異質であるから類似したテーマを入れるとするなら、家庭教育の充実・支援ということであったので、下の方は削除させていただきます。

会長： 29ページのみんなでつくるまちプロジェクトの中でまちまちづくりのリーダーが必要になってくるということからこういうこともあげておくべきであるということです。

委員： 役割分担ということで、他市の例ですが、コミュニティ単位でお金を配って自分達でまちづくりをやりなさいといのがあり、熱心なリーダーがいる所ではまちづくりができるが、いない所では地域がバラバラで格差が生じているという状況もある。周南市もそういう制度を想定した場合、リーダーを養成しておくことは必要だと思う。

会長： リーダーの養成を追加するということにします。
31ページの施策の大綱のところでも2番目家庭・地域教育の支援・充実ここでは文書を作成しないと具合が悪い。

委員： 青少年の健全育成の所で青少年の健全育成は目標です。学校教育、地域教育も場、地域教育も場です。子供達はそういう場を通じて育つ。青少年健全育成の所を家庭・地域教育の育成に置き換えてもいいと思う。地域の教育力というのを盛んにいっているし、県も推進している。地域の教育力に家庭教育も入ると思う。子供達が生まれ育っていく過程の中で人格形成されている。家庭が崩壊することによって、そこが行き詰まっている。最近、地域でもよその子は知らんという感じがある。いろんな場を設定し、場づくりをサポートしていく。敢えて家庭、地域の教育力の養成とか充実とかいう表現にした方がよい。

会長： 前回の時にも協議が済んでおり、素案の作成時の協議の時も当然

これは必要だということでこの素案にも掲げているので採用には間違いありませんが、具体的な文面について披瀝しておいてもらうと作りやすいのですが。31ページの1番が青少年の健全育成、2番が学校教育の充実とある所に家庭、地域教育の充実、支援を入れる。新しい項が入るということになるので、素案の文面、読みきれないのでこうなっているので、後程提案者と調整しながら文書を入れるということにしたいと思います。

委員： 親を教育する場が絶対必要だと思います。

委員： 新たに学校、家庭、地域教育の連携というようにまとめてやる方法もあるのでは。

会長： 学校教育の充実というのは基本ですから項を立てて置いておかないといけない。

快適に暮らせるまちづくりここでは、資源循環型社会の構築と自然環境の保全ということでの環境面のことです。33ページの下(2)です。

委員： 「一般廃棄物、産業廃棄物の広域最終処分場の確保を図るため、現在計画されている海面埋め立て事業を推進します。」ということになっているがそれでいいのかと思っている。ここを「現在計画されている海面埋め立て事業の推進にあたり、自然環境の保全に特に研究、検討を加えて事業を進めます。」としてみた。現在計画している分については、そのままやりますよということになっている。

委員： これは入れた方がよい。

事務局： 一般廃棄物の最終処分場の確保と海面埋め立ては一体的に書いている。一体的に自然環境の保全とかそういうことを入れた方がよいと思う。確保と別物ではない。

会長： いずれにしても、要旨として自然環境の保全に特に研究と検討を加えるということを入りたいということです。

委員： 最終処分場というのは、海面埋め立てだけでなく、他にも出てくることがあれば、確保を図るためと海面埋め立てだけになってしまうから、委員さんが言われることが限定されると思う。埋め立て事業じゃなく、他の最終処分場を確保の時にもこれを入りたいと思えば。

会長： 最終処分場の確保や計画されている海面埋め立て事業の2本です。原文については、海面埋め立てだけ書いてある。最終処分場の確保は今の所海面埋め立てしかないから、海面だけにしぼって書いてある。

委員： 自然環境の研究とかいうことになると別の分にもあてはめてやらないといけないのではないか。今のままでは限定されてしまう。

会長： 処分場の確保と海面埋め立て事業にも両方にかかるように変えていいのなら両方にかきたい。

事務局： 原文はN7の埋め立てを言っていると思う。一般廃棄物については、今の所計画はないが、生まれてくる可能性はあるので、その辺の考え方は原文とは別考えで。

会長： 提案者とずれがあるわけだが、最終処分場の確保と海面埋め立ての両方の部分についての環境アセス的な研究と検討を加えて事業をするという披瀝をしたいと思う。

36ページの人が安心して生活できるまちづくり。ここではコミュニティの部分ですが、コミュニティの組織強化とコミュニティの具体的な部分を取り上げているということです。

委員： コミュニティ活動の一層の推進に向けという所ですが、コミュニティづくりは大事なことである。ここは、少し具体的に書いた方がいいのじゃないかと思ひまして。

会長： ここはいいですね。

災害に強いまちづくりの所ですが、ここでは災害を自然災害もさることながら、交通災害等もっと広くとらえたらということです。2行目の阪神淡路大震災や増加している諸犯罪や交通災害を通してということで諸犯罪と交通災害を付け加えるということです。ここはいいですね。

38ページの農地の荒廃ということに非常に危惧していることの実情がある。ただ、後継者問題だけでなく、自然保護も含めましょうということです。38ページの下から2行目の所で「後継者問題や自然保護の観点からも耕地の荒廃を防ぎ農業に対する理解」とします。いいですね。

39ページの林業のことについてですが、ここは「間伐等の適切な保育施業」を「計画的な森林づくりと今後の促進を図ります。」にしたということである。

委員： 間伐等の適切な保育施業の促進ということで、間伐等で等が入っているが、間伐等は小さいことで、その前が大きなことなので、あまり極端なのでこう変えたらと思います。「計画的な森林づくりと今後の促進を図ります。」と。

会長： 第8章の行財政改革の推進の所で、文末の「市役所の構造改革に取り組みます。」を「市の機構全般の構造改革に取り組みます。」

とより具体的に表現したい。このことはどうでしょう。意見として
だしまししょう。

会 長： 市民一人ひとりが生き生きとしていることが、地域社会が元気で
活力に満ちたものになると思うのでこの計画の名称を「みんなの周
南 ひと輝きプラン」又は「みんなの周南一人ひとりがまちづくり
の主演」にしたいと思うが。できれば1つに絞り込んで総意をもっ
て出した方がよいだろう。

委 員： 下の方の「みんなの周南一人ひとりがまちづくり主演」がいいと
思う。下の方が具体性がある。横文字はあまりない方がよい。

会 長： 1つに絞った方が効果があるので、「みんなの周南一人ひとりが
まちづくりの主演」にしまししょう。

第1章時代の潮流の所で「S O H O」の注釈が必要ではないか。

拠点性の向上の部分については、本文の方を生かして拠点性の向
上の為の諸施策を生かし、駐車場の確保等市民の利便性の向上も重
要な課題の1つであることも考慮することを入れることとする。

市民意識の所で市民提言の抜粋の中で「望みます。」とあるのを
語尾を統一するために「望む」と変更したらどうか。

市民意識のまとめの所で「市民の意識は住みやすさにおいては、
概ね満足しています。」の所を「概ね満足となっています。」に変
更したらどうか。

委 員： アンケートの結果がこうなっているということであって、市民が
思っているということではないので「満足となっています。」とい
う表現の方がいいと思う。

会 長： 将来の都市像の所でこうしたことから本市の将来の都市像は下
の方の「ひとが輝く元気発信都市わたしの周南」とします。

29ページ5つの目標に「ひとが」とあるのを「わたしが」にし
たいということです。

委 員： 起草委員会するときでも総合計画の基本的考え方という所に「ひと」
というのを基本にして大事にしているということがありました。

委 員： 「わたしが」ということになるとその人一人になってくるというこ
とになり、一人が全体ということで自分だけということになると思
う。

会 長： この項目は削除しますか。

委 員： はい

20ページの将来の都市像の「一体感のあるまちづくりの推進と
各地域の自立的な発展を促すまちづくりの推進」の所で団体自治と

住民自治に注釈が必要である。

会 長： 第3章のまちづくりの目標の所で「市民と行政の協働のための新たなしくみづくりに努める」を「市民と行政が協働しあうための新たなしくみづくりに努める」と変更したらどうか。

委 員： 「の」がいっぱいあるということで。

会 長： 意見として付け加えておきましょう。

31ページの施策の大綱の青少年の健全育成の所の4行目の「しかしながら」は違和感があるので、削除したらどうか。

委 員： 「しかしながら」は違和感はないですか。

会 長： ここは色々意見がありますが、このまま出しましょう。

35ページの福祉の充実の13行目で、「自立と社会参加を促進するため、市民の理解と協力を得ながら、人が地域社会の中で、生き甲斐を持って」を「障害者の自立と社会参加を促進するために市民への啓発活動を積極的に行い、市民の理解と協力を得ながら、地域社会の中で生き生きと」と変更したらどうか。

委 員： 市民への啓発活動を積極的に行いというのは、理解と協力を得ながらの部分に含まれますが、市民にまだ理解が足りないということから、また障害者の中には回りの目が気になって出てこれない人が結構いるらしくその辺を理解してもらいたい。

会 長： これで出しましょう。

20ページの所の「疾病、病弱の有無」については「疾病等の有無」ということに変更します。

あとの微調整の方で、表現方法とか家庭教育のことあたりについては、調整をしていきたい。内容については、これで結構ですね。答申書のスタイルについては、7月1日に一斉に4地区が出すということで、日付は7月1日とする。内容は「平成16年4月26日付け・・・・・・・・・・答申します。なお、審議の過程における委員からの意見等については、下記のとおり集約したので尊重されたい。」こういうスタイルにして下に主要な意見と参考意見をつけるということにします。表現の中で理解して欲しいのは、山口県東部の中核的都市の形成と地域の特性を生かしたまちづくりという表現をしているのは、その背景には中核的都市形成の意欲が伺えることと地域の特性を生かしたまちづくりが伺えること、根拠としては県下第3の人口規模を有する周南市であること都市像としてはグレードの高い部分を想定している。目標人口を17万人と置いている。行政経営方針の第2項で広域合併の推進をもとにした中核都市づく

りの推進を図る将来展望を掲げている。ということから中核都市づくりの意欲が伺えるという表現にしてもらった。地域の特性については、土地利用計画の中で都市部分、郊外とか中山間とかそれぞれの地理的、気候的条件の部分の中で特性を生かしながら、まちづくりをしていくということから、地域の特性を生かしたまちづくりが伺えると理解した。「概ね」という表現をしているが、完全ではなく色々注文をつけたということから「概ね」ということにした。

委員： 7月1日に答申するが、4地区から提出されるがどこがどうまとめるのか。

会長： まちづくり総合計画審議会これは最上位の審議会となるが、そこで審議されることになる。その前に庁内での策定委員会があるが、そこへ提出される資料として答申が反映されたものになるかは日程的なものがあるのではっきり分からない。

委員： 我々が提出した答申が基本構想にどういう考えでどう反映されたのか委員に対して返答があるのか。ただ答申を出したというだけでは納得できない。我々の思いがどれだけ行政に伝わるのかが知りたい。

委員： 答申の意見の中に答申が基本構想の中にどう反映されたかを報告するというところを入れるかどうか。

会長： 審議会に付託されたのは基本構想の諮問です。あとのフォローは必要なことです。答申の行方を報告するというのは、答申を受けた側の道義的な考え方です。受けた答申の内容をああした、こうしたということを出すのが同義的に当たり前のことです。それをしないというのは、諮問者の資質の問題でしょう。そこを追求するかしないかは審議会の考え方ですが。

答申書がどうなるかは気になる所ですが、行政の方から情報を頂くということでご了解ください。

長時間に渡り、度々お集まり頂きありがとうございました。皆様のご協力により答申ができました。本日をもって諮問に対する答申の審議は終わります。7月1日までに本日のまとめたものをみなさんのところへお配りします。

上記は会議の経過の要点を記載したもので相違ない。

平成 16 年 月 日

鹿野地区地域審議会 会長